

オーストラリア

クイーンズランド大学  
留学に関する報告

高知大学  
人文学部  
国際社会コミュニケーション学科

滞在期間 2011年1月～2011年11月

○滞在期間

2011年1月～2011年11月

○滞在场所

クイーンズランド大学（オーストラリア）

○感想

1. クイーンズランド大学について
2. 留学後の感想・反省点

## 1. クイーンズランド大学について -----

### ●ブリスベンについて

クイーンズランド大学のあるブリスベンはクイーンズランド州の州都で、人口200万人ほどのオーストラリア第3の都市です。一年を通して気候が穏やかで、冬でも昼間には20度前後になる日も多く、大変過ごしやすいです。この良好な気候のためもあり、最近では年々人口が増えています。若者が多く、民族も多様で、とても multicultural な街です。中心街の街並みは、古い建物が混じりながらも現代的な建築物がよく目について、新しい街という印象です。郊外は、中国系の移民が多く住んでいる場所、ラテン系の移民が多く住んでいる場所など、場所によっていろいろ特色があります。これらの郊外では、アジア系の食材が入ったり、おいしいレストランが多かったりするので、よく週末に友達と遊びにいってました。

治安は割と良く、夜に治安の悪い地域を一人で歩かないなど、最低限の注意を払っていれば安心して暮らせると思います。また、交通の便も割と良く、大学のキャンパスからシティへは、20分ほどで、バスが頻繁に走っています。電車や、フェリーの利用も出来ますが、市民の主な交通手段はバスです。運賃は、学生の場合は大人料金の半分で、およそ150円から300円ほどです。大人料金はこれの倍になるので、学生証(その地域の大学の学生証のみ有効)がないと高くつきます。

お店が閉まるのは非常に早く、平日でもスーパーマーケット以外は5時か6時、日曜日は4時ごろに閉まります。スーパーマーケットはもう少し遅くまで開いていますが、それでも平日は8時又は9時まで、日曜日は6時には閉まることが多いです。

ブリスベンの人達は、基本的にのんびりとした余裕のある生活を送っているように見えます。街では、5時過ぎにはスーツを着たサラリーマンが仕事を終え、帰宅しようと溢れかえり、道路も混み合います。温暖で一年を通して晴れの天気が多い影響もあり、野外のスポーツが盛んで、夕方になるとジョギングをする人や、週末に芝生でスポーツを楽しむ人をよく

見かけます。また、人柄も陽気で、週末に限らず友達や職場の人とお酒を飲んだり、週末には、野外でバーベキューを楽しんだりしています。

### ●生活費、家賃について

物価は日本のおよそ2割から3割ほど高く、特に野菜、日用品や教科書はそれより高いこともしばしばあります。家賃はそれ以上に高く、大学内にある寮、アパートは週300から400ドル程度、大学周辺のシェアハウスは週180ドルから250ドル程度です。大学内の寮は、1セメスター一括で払うことが多く、その他の、個人的にオーナーと契約を結ぶアパートやシェアハウスは月いくらかではなく、週何ドルと決められているのが一般的です。大学生の独り暮らしで一番一般的なのは、シェアハウスの一部屋を借りることです。大抵の場合、キッチンとシャワーは共同で、自分の部屋には机とベッドがあります。大学の寮は、学部生は3食食事つき、大学院生は自炊という形が多いです。

通常は、学期が始まる2,3週間前にブリスベンに到着して、安いユースホステルなどに泊まりながら家探しをします。家賃は、安くしようと思えば、週150ドル程度のところも見つかります。ただ、探すのに非常に時間がかかったり、部屋を出る際に次に住む人を見つけないといけなかったり、トラブルが起こった時にとっても時間をとられることもあると聞きます。

私は、前期は大学内にあるアパート、後期は寮に入りました。個人的には、寮の方がよかったと思っています。家賃は非常に高いですが、3食食事がついていて、大学内にあるので治安もよく、図書館にもすぐに行けます。自炊や通学に時間がとられない分、勉強のための時間がたくさんとれます。また、寮の友達や先輩に勉強を助けてもらったり、エッセイの添削をしてもらったり、同じ授業を取っている人と一緒に勉強したりと、プラスの点が多いです。

寮に入っていると、大学内の施設を無料で利用することができたり、沢山の催し物があったり、友達がつくりやすかったりと、留学生活を楽しく送るためによいことがたくさんあります。勉強の面でも、生活の面でも、寮ならではの充実した留学生活が送れると思います。半期だけでもいいので、入寮出来るのならば、してみることをお勧めします。寮の申し込みは早期に始まるので、定員オーバーになってしまうことが多いですが、1学期目が無理でも、オーストラリアに行ってすぐにコンタクトをとれば、2学期目から入ることが可能だと思います。

### ●大学の様子

クイーンズランド大学(UQ)には3つのキャンパスがあり、私は、一番大きいSt Luciaキャンパスで学んでいました。St Luciaキャンパスはブリスベンの郊外にあり、シティからはバスで20分ほどのところにあります。大学の敷地内にはレストランやカフェ、バー、薬局、本屋やスポーツ施設などもあり、日常生活で必要とするものは大抵の場合、校内のお店

でそろそろようになっていきます。広い芝生があちこちにあり、気候のよい季節には、学生が寝そべって本を読んだり、勉強したりしている姿が見られます。図書館などの施設も充実していて、St Lucia キャンパスには全部で5, 6 個の図書館があり、学部によってそれぞれ違った図書館が用意されています。その学部に所属していなくても、UQ の学生であればどの図書館も利用できるようになっているので、みんなそれぞれ自分のお気に入りの場所を見つけて勉強しています。また、24 時間開いている図書館もあり、テスト前などは、そこで友達と遅くまで勉強していました。

クイーンズランド大学全体の生徒数(他の場所にある二つのキャンパスも含めて)はおおよそ 44000 人です。規模の大きい大学で、特に留学生の数は他の大学と比べても多く、St Lucia キャンパスでは 3000 人以上の人が留学生です。キャンパス内を歩いていて、英語でない言語を話している人に遭遇することも珍しくないですし、本当に幅広い年齢層、人種の人がキャンパス内に居ます。

授業は、一学期に学部生は 4~5 個、交換留学生は 3~5 個取ることができます。通常は 4 個で、交換留学生の場合、3 個だけ取る人も割と多くいます。交換留学生は、好きな授業を、専門、学部を問わず取れるようになっているので、自分の興味のあることを勉強できる仕組みになっています。学部生は、1 つの授業に対して一定の学費がかかるので、その授業を落とした場合、次の学期に取りなおした時に新たな学費がかかるようになっていきます。ですから、授業を落とさないよう、みんなよく勉強しています。逆に、授業をとらない限り学費はかからないので、途中一学期だけ大学を休んで何か好きなことをしたりするのも、手続きなどいらないので、きまった形に縛られず、割と自由に大学を利用出来るようになっていきます。

3, 4 個しか授業を取らないので、講義の時間は必然的に少なくなります。しかし、あくまでも大学の講義は勉強の助けであり、本などを読んで自主学習をしなければ、よい成績は取れないような仕組みとなっています。ですから、受講している授業の内容にもよりますが、テスト勉強は直前 2, 3 日では全く足りません。普段からこつこつと講義を聞いて、教科書を読み、理解した上で 4, 5 日はテストに向けて勉強しなければいけません。しかし、自分の興味のある授業を見つけた時は、大変なテスト勉強もあまり苦にならず、楽しく勉強することが出来ました。

クイーンズランド大学の授業は、多くの場合、週に 2~3 時間の講義と、1~2 時間のチュートリアルで成り立っています。チュートリアルは、生徒数が 15 人から 20 人ほどの少人数で、主に講義の復習、解説を行います。講義の要点を押さえて、わかりやすく解説してもらえるので、講義を理解するのに、とても助けになりました。また、Lectopia というシステムがあり、Blackboard というウェブサイト上で、録音された講義を聴くことが出来ます。すべての授業にこの制度が取り入れられているわけではありませんが、家で講義を復習することが出来るので、とても助かりました。授業のオンライン化がとても進んでいて、Blackboard

を使って提出物を提出したり、自分の成績や、講義についての補助的な資料などもそこから見られたりするようになっていきます。

私は、前期はオーストラリアの歴史の授業、ライティングの授業、フランス語を受講しました。後期は言語学系の授業を中心に、第二言語習得論、音声学（音韻論も含む）、フランス語を受講しました。始めの一カ月ほどは、授業を変えることが出来るので、色々な授業に出席してみて、よく考えてから最終的に何をとるか決めることが出来ます。

また、UQに申し込みをする際の英語能力の基準のことですが、TOEFLよりもIELTSの方が、比較的基準をクリアしやすいように思います。私はTOEFLを受けましたが、周りの友達はTOEFLで基準までいかなかった人も、IELTSでは基準の点数が取れたという人が多かったです。得手不得手があると思いますが、TOEFLの点数が伸び悩んでいる人は、一度IELTSを受験してみるのもいいかもしれません。

## 2. 留学後の感想・反省点

10か月の留学生活を終えて、やはり思うことは、留学に行って良かったなということです。前期は英語での授業にも慣れず、あまり良い成績がとれませんでした。後期は、どうやって自分で勉強していけばいいのかだんだんと分かってきました。結果、勉強の内容にもより興味がわいてきて、前期よりも良い成績が取れたので、とても嬉しかったです。また、自分が一番興味深いと思った音声学・音韻論の授業で一番良い成績が取れたことで、勉強を沢山した甲斐があったな、と思いました。

また、大学の寮に入ったことも、良い経験となったと思います。色々な国から来た学生と食事を共にし、勉強も一緒にしたり、週末に遊びに行ったりしたことで、この留学生活がとても楽しいものになりました。毎日、友達と喋ることがとても楽しくて、それが自然と英語の上達にもつながったのではないかと思います。

交換留学がしくて、高知大学の国際社会コミュニケーション学科に入りましたが、自分の英語力のなさに何度もあきらめようかと思いました。けれど、最後まで英語圏への留学にこだわったことで、英語を学びに留学するのではなく、英語を使って何かを勉強する、というレベルまで到達できました。自分が大学生活でやりたかったことが出来て、アドバイスを下さった先生方、色々ややこしい手続きを進めて下さった留学室の皆さま、色々な面で私のやりたいことをやらせてくれて、サポートしてくれた親に感謝しています。